

2025年1月30日

トヨタ・モビリティ基金、フランスのヴィシー市と共同で、 障がい者向け移動ナビゲーションアプリの実証実験を本格的に開始

一般財団法人トヨタ・モビリティ基金（理事長：豊田章男、Toyota Mobility Foundation、以下「TMF」）は、フランスのヴィシー市および Andyamo, Okeenea, Genny Factory のパートナー3社と共同で、障がい者向け移動ナビゲーションアプリの実証実験を開始しました。

なお、本実証実験は、昨年秋より段階的に立ち上げ、この度、全面的な準備が整ったため、本格的に開始をするものです。

この実証実験を通じて、身体能力に関係なく、全ての人が自立的に安全に移動できる社会の構築を目指し、他の都市や地域でも展開できるアプリケーションを開発していきます。そして、今後、より多くのパートナーやイノベーターとの協力を通じて、移動に困難を抱える人々のシームレスな移動の実現に向けた取り組みを推進していきます。

プロジェクトの概要は以下の通りとなります。

【プロジェクトの概要】

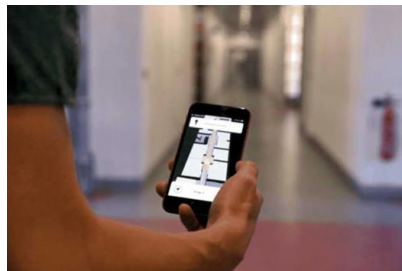
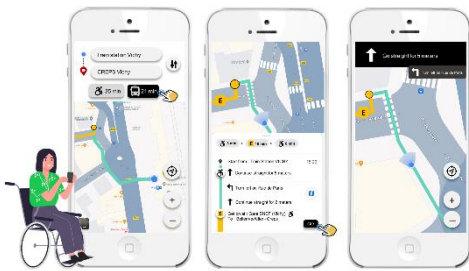
(1) 実証内容

実証内容	障がい者特有のニーズに合わせて設計された、移動ナビゲーションアプリの実証
実証時期	2025年2月～2026年1月
実証場所	ヴィシー市街地、および同市総合スポーツセンター（CREPS de Vichy*）の敷地内 * フランススポーツ省が管轄する全国に17ある総合スポーツ施設の1つ。500ヘクタールの敷地面積を有し、障がい者スポーツの普及に向けた施設としても幅広く使用。

(2) 協力パートナー

・障がい者への支援を重点的に行ってきた実績のあるヴィシー市の協力のもと、革新的な技術を持つフランスのスタートアップ企業 3 社と連携します。

Andyamo 社	ヴィシー市内とスポーツ施設間の移動を支援するマルチモーダルなナビゲーションアプリを提供。
Okeenea 社	スポーツ施設内のマッピング。各ユーザーの障がいの状況に応じた施設内の移動を支援する音声アシスト機能付きアプリ「Evelity」を提供。
Genny Factory 社	コネクテッド車いす技術を活用し、ヴィシー市内の路面状況や勾配などの歩道情報等を収集。収集したデータを Andyamo 社のナビゲーションアプリに組み込むことで、車いすユーザーに対応した支援を実現。



障がい者向けの移動ナビアプリ/ Andyamo 社 屋内移動ナビアプリ「Evelity」/Okeenea 社 コネクテッド車いす/Genny Factory 社

トヨタ自動車は創業以来、お客様、ビジネスパートナー、従業員、そして地域社会等、全てのステークホルダーを尊重しながら、自動車を通じた豊かな社会づくりを目指して事業活動を行なっています。そして、より公益的な活動を行うことを目的に、2014 年 8 月、TMF を設立しました。TMF では、モビリティを通じた豊かな社会づくりへの貢献に向けて、世界中で移動課題への対応をはじめとした幅広いプロジェクトに取り組んでいます。



TMFは、幅広いプロジェクトを通じて培った技術やノウハウを活用し、多様なパートナーとの協議を通して、国連が定めるSDGs（持続可能な開発目標）の考え方にも沿った活動を進め、持続可能な社会の実現に向けて貢献していきたいと考えています。

PRESS RELEASE



問い合わせ先)一般財団法人トヨタ・モビリティ基金

TEL:090-8385-4627

(受付時間:8:30~17:30 土・日祝日除く)

E-mail : info@toyota-mf.org